

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	実夢
（ユニット名）	2階ユニット
所在地 （県・市町名）	静岡県焼津市大覚寺918番地
記入者名 （管理者）	樋熊 和子
記入日	平成 21 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①【地域との関わりを大切にし、一人一人が健康で安全かつ地域とのつながりを失わない日常生活を送っていただけるよう支援します】②【一人一人の個性を尊重し、家庭的な生活環境の中で、生きがいや心のやすらぎ、笑顔で楽しい毎日を心を込めて支援いたします】	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々笑顔があふれる施設づくりに取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々やご家族からは、「笑顔がいいね」と言われます。また、事業所へのご理解や協力も戴いており、尚一層この地域に馴染んでいけるように努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝の挨拶からはじまり、ベランダ越しの世間話や相談、取れたて野菜の差し入れなどの交流が日常です。利用者の趣味活動にもご支援戴いて居ります。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、地元の行事や清掃活動に参加させて戴いています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「子どもをまもる家」として登録し、玄関に看板を掲げている。近隣の高齢者(ミニデイ)との合同行事や日常的にも体の不調などの相談があり援助しています。		①地域の学校との交流 ②秋祭り(神輿)の休憩場所の協力
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価後に運営推進会議を行い、事業所と市、今まで以上に地域との関係や交流の場が広がりつつあり目標に向け今後も取り組んで行きたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と家族会を合同で開催しており、日常的に協力をしてくださる委員の方からの事業所の実状が伝えられ、ご家族からも「解りやすい、普段の暮らしが見える」とご意見をいただいています。普段の生活援助が最も重要で、普段のサービスの質の向上に繋がる支援に取り組んで行きたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	去る、H・20・10・22に厚生局と市の合同実地指導に協力し、連携を深めることができた。今後も市との連携を図り事業所のサービス向上に努めたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所内では後見人制度を活用されているケースが2件あり、理解を深めできる範囲で支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的虐待のみならず、心的虐待(押し付けの介護や言葉等)も含めミーティングで話し合いお互いに注意を払ってケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の際は時間をかけて説明をし、納得いただいた上で契約又は解約を行っている。入居前や契約前にはご家族や利用者本人に施設を見学していただき少しでも不安なくご利用を開始できるように配慮している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活での不満や年間の活動への意見に対し傾聴に努め反映できるように努めている。また、家族会参加での意見交換や、市から委託された相談員の来所時に寄せられた情報に対して速やかな対応に心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別の状況については、家族会や面会時に報告し、全体の状況については広報誌「実夢だより」で情報を発信している。特別な事が起こった場合は、その都度報告し連携を大切にしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間計画を立てる際や、個別のサービス計画書の立案や見直し等ご家族の意向をサービスの運営に役立てている。苦情・相談を受けた場合は市に報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング(申し送り)や月1回のスタッフ会議の中で意見交換を行い事業所の運営に反映している。利用者の状況により、日々変わる事も話し合いながら対処している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	年中行事や突発的な事故・発病に対して、なるべく施設側で対応しているが、予約の検査や時間のかかる治療(点滴など)は家族に協力を要請している。実際は非常に厳しく協力を得られない場合の方が多い。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については特別な理由があった場合を除きなるべく行わない。(どうしても肌が合わない場合、悪影響が出る場合はやむ終えない)。施設内の雰囲気も見極めて配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月1回の研修が行われており、主に医療的な研修が多いが地域住民参加型のためとても解りやすく専門的知識が学べる。また、働きながら資格取得ができるように勤務調整するなどして、個々のスキルアップの支援を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しているため、協会の研修会などで交流を図っているが相互訪問活動は至らない。	○	以前のように志太地区(焼津・藤枝)で相互訪問等の交流を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩み事や気になっていり事など意見を述べる機会があり、職員のストレス軽減の取り組みがされている。また、休憩時間は1時間取れゆっくりと休める環境となっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績に対し、昇給や賞与、リフレッシュ休暇、パート職から正職員への昇格、資格手当などで、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設利用前には必ず本人と家族に会い情報収集し不安なく利用を開始して頂けるよう努めている。実際に施設をご覧いただき気に入って下さり、双方が納得したうえで申し込みの手続きをしていただいている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所施設を探し求め飛び込みで相談に訪れるケースが多く、空き部屋が無く、待機者もあるため他のサービス利用は勿論、介護保険の説明から始め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し利用を実施していないため、施設を訪問されたときに本人の感じや場の雰囲気を観て、利用開始前に対応を検討し、無理なく馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で職員と利用者が自然と一緒に行動を共にし、利用者から色んな事を教えていただき信頼し支えあう関係が築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に世間話をしたり利用者のことで話し合ったりと共に支えていける関係が築けるよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の訪問がいつでもできるような配慮と雰囲気作りをし、本人や家族から得た情報に対して中立な立場で意見を受け止め良い関係が保てるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等、要望があればその時の体調に応じ家族と相談し支援している。馴染みの面会者が多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握したうえで一人一人がその場所に居易く、コミュニケーションをとり易い環境をつくり見守っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙のやり取りや訪問で近況の様子が解り、励ましたり、励まされたりしている。退居された家族から相談や悩みを聞くこともあったり、時々利用者の「おやつ」にと差し入れもあり感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を作成する際は利用者本人と家族に意向を伺っている。意思の伝達が困難な場合は日常の会話の中から出た意見や要望を取り入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を提供して頂いた中から生活スタイルの把握に努めている。また、独居生活や施設生活が長い方は利用者との会話(世間話)の中や、今まで利用されていたサービス事業所からの情報も活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画を基に、個別の申し送りやケース記録への記載をして現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を踏まえ担当者を中心に意見を出し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変わらない場合でも3ヶ月に1回見直しを行い、入院等で状態が変化した場合は、主治医の指示に従って看護師や管理者の意見や家族・本人の希望を取り入れ計画を立て直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に生活の様子や日常会話、特記(受診の結果や医師の指示)事項を記録しケアの方法を共有し、個別ケアに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に対し、嗜好品の購入などの買い物やリハビリ通院などの支援を行い、機能維持・向上に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個々の持っている能力を見極め、要望(特に趣味活動)に応じて近隣住民のボランティアの力を借りながら支援している。		近隣住民から輪が広がり 21年度は、地域の小中学校や子供会との交流を行う予定。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリ通院や関連施設のイベントに参加するなど、介護保険上問題のない範囲で必要に応じ支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として会議に参加して頂いております。利用者や家族の意見・要望等を共有している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や特定健診の援助、利用者や家族の希望を考慮した治療方針を検討し納得した治療が受けられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関連の医療機関で専門医や認知症に詳しい医師(介護支援専門員や認定審査員の経験あり)の治療を受けている。情報を共有し色々と相談できる関係が築かれている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関連の医療機関から週1回看護師の訪問があり、利用者や職員の日常の心配事や健康管理上のアドバイスを受けられ心強い。入院者が出た場合も状態の経過報告を受けたり、機能維持に関しても、主治医や病棟職員との連携を図っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院になった場合は「情報提供用紙」に生活状況等を入院先に提出し、レベル低下の防止や早期に退院できるように主治医や病院関係者と連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約の際に終末期や重度化・急変時の対応について意向を伺い、万が一の時は主治医に意向を伝えている。職員間では、まだまだ不安はあるが「普通の生活」の大切さを共有しケアに取り組めるようになった。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設から5年、徐々に老いていく利用者に寄り添い、「頑張らなくていいから、毎日笑って1日でも長く生きて欲しい」と願い実夢での生活を継続できるように検討し支援しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	在宅復帰された方は無いが、他のサービス事業所へ転居の際は、本人や家族の要望・生活状況の提供を行い退居後も情報交換をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1つ1つの言葉かけにとっても気をつかいます。特に清潔保持の援助は日々悪戦苦闘。見守りをしながらの記録等は止む終えずおこなっていますが「色々やることがあって大変ね」と労いの言葉を掛けてくれます。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事の配膳や洗濯物たたみ、職員の手伝いetc。一人ひとりが興味を示し出来る事を楽しんで行えるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意思決定を尊重し、ゆったりと生活していただけるように、言葉かけや職員の行動(動き)に気を付けています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で作られたセーターや洋服、ご家族からプレゼントされた物を職員のアドバイスでコーディネートし、おしゃれを楽しんで生活している。(利用者の中には「もったいない!」と仕舞い込んでしまう方も..) 理髪はご近所の床屋さんが手軽で人気です。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の美味しそうな匂いに1時間も前から待ちわびてソワソワ。男性も女性も和気藹々と食事を楽しんでいます。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病状や食事摂取量を考慮し利用者の好み(ヨーグルト・コーヒーなど)好みの飲食物を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗が多くても日中は布パンツになりトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は行っていないが、毎日でも入浴が可能で時間も利用者の体調や希望を考慮し、ゆっくりと気持ち良く入浴して頂いています。入浴嫌いな方へはタイミングを見計らい何度も声かけし保清に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の行動に制限なく、昼寝や休息は自由に行えている。夜間、眠られず起きてこられた場合は話を聞き安心して休めるように配慮している。入眠剤は希望する利用者のみが服用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味・会話等から「できること」、「できそうなこと」を見出し、有する能力を発揮できる場面づくりを支援している。関連施設の文化祭では、1年間の成果を発表する機会があり、毎年受賞している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	18名中11名がお小遣い(家族と相談し、万が一紛失した場合でも大丈夫な金額)を自己管理しており、電話をかけたり外出時には買い物を楽しめるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ゴミだし・買い物等、体調や天候を観ながら支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間を通して季節ごとの外出を積極的に取り入れ、ご家族やご近所様と一緒に楽しんでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ほぼ日常的に要望があり支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただき、一緒にお茶を飲みながら過ごされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止宣言」を元に職員が一丸となって拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はせず職員間で連携を図り、見守りや行動を共にし制限のないケアに取り組んでいます		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の安全確認は業務の流れ(バイタルチェック・お茶等の声掛け)の中で把握しており、夜間は1時間に1回巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常時でなく状況に応じ目のつかない場所や、手の届かない所へ保管している。薬は鍵のできる場所に一括で保管してある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの自立心や尊厳を大切にしつつ、日々の状態(健康状態を含む)を把握し近くで見守り事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一人ひとりの機能低下を把握し個別の対応方法をマニュアル化し職員は周知に努め、事故発生時は速やかに対応できるような仕組みをとっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練(地震対応含む)を行い、その都度防災教育を実施している。また、地域消防団や近くの関連施設の協力体制が整っている。	○	スプリンクラーの設置 検討中
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの状態に変化があった場合は家族へ報告、ここでの生活を継続していく中で、今後起こりうるリスクについても話し合いを持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回全入居者のバイタルチェック・状態の観察を行い、1日を通しての様子や気づきを引き継ぎし、異常の早期発見・早期対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に付いてくる処方箋情報の用紙を個々のケースファイルに綴じてあり職員間で情報を共有し、状態の観察や変化を早期に確認できるよう努めている。また、処方や主治医からの指示についても伝達して情報の共有を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の促しや介助、毎日の体操を職員と一緒にやり、個別には家族の理解のもと乳製品などを摂れるように働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者一人ひとりにも口腔ケアの大切さ(様々な感染予防)について援助・指導し、一人ひとりの能力に応じ支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり、毎食の摂取量を確認し低栄養や低蛋白に注意を払っている。また、病状に応じ同法人の栄養師に相談にのってもらい、介護職員でできる範囲で減塩食やDM食などの個別の支援に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり全職員で予防に取り組んでいる。外部訪問者にも留意点を呼びかけ協力を得ている。また、玄関にマスクを設置し手洗い・うがいの啓発を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾の消毒、キッチン周りの清掃等、取り決めがあり衛生に努めている。生鮮食品は毎日配達されたものを調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中6時～21時(生活時間帯)は玄関の施錠をせずに気軽に訪問して戴けるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は誰もがゆっくりと寛げる場となっており、会話や笑顔が沢山うまれる居心地の良い場所になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子や陽だまりの場所等で思い思いに過ごされている。利用者同士でそれぞれの居室を行き来してる(微笑ましい)場面もみられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆や家具などの持ち込みが少なく殺風景な感じはするが、使い慣れたもの(電化製品・洋服・趣味用品)で入居前の生活支援に取り組んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間の換気と清掃時の空気の入替えを行い、居間や各居室のエアコンはこまめに調節している。何時の間にか冷房が暖房に、その逆や設定温度が変更されていたりとびっくりすることもしばしば。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部のバリアフリーや手すり等を利用し、自立に必要な援助を行い一人ひとりの機能維持・向上に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「いつも使うトイレ」「いつも使う洗面所」など、一人ひとりが覚えやすい場所・覚えやすい方法を見出し、声かけや見守りで自立した生活が送れるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで花を育てたり、菜園で野菜を作り収穫を共に味わっています。玄関前の広い駐車場で日光浴や散歩を楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は平成16年4月にオープンし「笑顔で楽しい毎日」を日々の理念に掲げ全力で取り組み5年が経ちました。利用者も随分と変わりオープン当初から利用されている方は4名となってしまう、それぞれができる事が少なくなり失敗も多くなっていますが笑顔だけは5年前と変わらず輝いています。また、地域住民の方々やご家族・ご親戚・お友達など当事業所との縁を大切にし利用者一人ひとりが安心して暮らせるようにと取り組んで参りました。去るH20・10月22日に東海 北陸厚生局と市の合同実地指導では良い評価を戴きました。その中で最も職員が嬉しく思った点は【利用者の笑顔の素晴らしさ】を評価された点です。今日までの取り組みが間違いではなかったと確信でき、今後も実夢とその取り巻く方々の笑顔を大切に、より一層のサービス向上に努めていきたい。